

第3回道の駅「来夢とごうち」再整備基本計画策定検討委員会

と き：令和3年11月12日（金）15：30～17：00

と ころ：安芸太田町役場 東館 大集会室

1. 開会

事務局 渡海

産業観光課の渡海が進行を務める。次第にそって会議を進めさせていただく。

2. 町長あいさつ

橋本町長

お忙しい中、集まっていただき感謝している。

コロナにより、なかなか進まないところであるが、前回の策定委員会以降に実施した町民の皆さんとの意見交換会においても道の駅に大変期待しているということが分かった。一つ一つ議論を重ね、皆さんの意見をいただきながらまとめていきたい。

委員長 篠原先生

過去2回はzoomでの参加であったため、初めての対面参加となる。振り返ると第1回は色々な町民、役場の皆さんが自分たちの意見で道の駅をつくっていくという方針を説明いただいた。

第2回では、密度の高い提案書であったが総花的でもう少し安芸太田の色を出す必要があるという意見が出た。今回はそこを踏まえて検討を進めていただいたと思う。

来年3月までが一つの区切りであるので流れを踏まえ、活発な意見交換をお願いしたい。

3. 協議事項

(1) 道の駅の将来像及び整備方針（案）について

委員会資料-1

(2) 安芸太田町観光・産業振興戦略（案）と道の駅との整合性について

委員会資料-2

産業観光課 菅田課長

前回の委員会から長い期間が空いたが、10月5日には7か所の道の駅の視察を行った。10月26日にはPJ会議を開催したため、その結果もお伝えする。10月23日～29日の間には4会場で住民意見交換会を実施している。以上を踏まえ委員会資料を説明する。

委員会資料1は将来像及び整備方針案についてである。前回から大きな変更点はない

が、道の駅の整備基本計画の考え方として、整備方針・整備イメージ（例）の1つであった「町の観光・産業のエンジンとなる道の駅」を将来像のサブタイトルへ変更した。これは安芸太田町として特に力を入れていきたい観光・産業を打ち出し、これを中心に道の駅周辺整備を進めていきたいという思いから別立てとした。

さらに住民意見交換会の下に事業者ニーズとして事業者からのヒアリング結果を追記し、町として観光・産業を推進したいという思いを示した。

委員会資料2では先ほどの将来像、整備方針・整備イメージを観光・産業分野に分けて示した。

観光分野は、町と地域商社で戦略方針を検討し、町の重点施策も整理した。議会や委員会の方でも意見を頂いている。また先日、篠原委員長が研修会を実施し、三段峡など個々の観光地で新たなビジネスモデルが確立できないか、アイデアを出し合えないか、と提言された。町も提言された方針で進めていきたいと思っている。

産業分野は、農業委員会をはじめとする組織と農業の現場で起きている課題を検討し、戦略方針や重点施策に落とし込んだ。指導体制の構築などを町の施策に位置付けることとした。来年度は農業に関して道の駅を中心とした集荷を行うか、企業とマッチングしていくのか等の計画を立てていくことを考えている。

資料裏面では、これらの観光産業振興戦略と道の駅との整合について整理している。

導入施設に関して、委員の皆様より必要、不必要等の意見をいただきたい。

住民意見交換会では、「農産物直売所は広げたほうがいいのではないか。」という意見が多く出ていた。参考資料1に具体の意見を記載している。

委員長 篠原先生

事業者ヒアリングの対象者はどういった方か？

産業観光課 菅田課長

道の駅及び周辺で活動されている方、観光、宿泊、農産物に携わる方などにお話を伺った。

委員長 篠原先生

資料1、2について意見のある方はいるか。山田先生に口火を切っていただけないか。

比治山大学 山田先生

情報提供ということでお話させていただきたい。安芸太田町の魅力を発見しようという公開講座を比治山大学で行っており、先週6日に第二回を行った。市民20名・学生4名程度が参加し、学生のアテンドのもと観光バスで森林セラピーや温井ダムなどを見て回った。70代80代の高齢者の方が多く参加されていた。

その際に、参加された 20 名に道の駅来夢とごうちについて簡単なアンケートを行った。これを通して安芸太田町を分析しようという趣旨の公開講座である。結果は周辺観光のトイレ休憩、情報の入手で立ち寄り型の道の駅となっていると改めて感じるものとなった。課題としては、オリジナリティが低い、看板がない等であった。くつろぎ憩い、周辺住民との交流も満足度が低くなると考えられる。郷土料理を楽しめるレストランが 2 階にあるのもバリアフリーの観点から課題である。

先週は天気が良く道の駅の来訪者数が非常に多かったため、道の駅レストランでは名物である漬物焼きそばが 12 時で既に商品切れとなり残念がる参加者が多かった。しかし、チャレンジショップでは漬物焼きそばが提供されており、参加者は数店舗から単品をチョイスして楽しんでいるようであった。地域住民である店主や他の観光客と交流・接点をもて、喜んでいる方も多かった。トイレも内部も狭い 2 階のレストランに案内するより喜ばれたのではないか。一方、郷土料理を楽しめる広くつろげるレストランは必要だと思う。伝統芸能を鑑賞できるスペースも重要。レンタサイクル導入してほしいという意見もあった。

また三段峡、温井ダムなど周辺観光地への丁寧な案内も課題である。ツアーの際は道の駅の案内所に誰もいなかったと参加者から聞いた。

最後に好きな道の駅を尋ねたところ、島根県の「ゆうひパーク浜田」という意見があった。ここは石見一の夕日を看板とし、目的地化している。安芸太田にもここにこないと体験できないというオリジナリティ、看板が必要ではないか。

委員長 篠原先生

外部からの目で見えた率直な意見だと思う。チャレンジショップが人気とのことだが、委員会資料 1 の整備方針・整備イメージである出会い・ふれあいをつなぐ道の駅で自然や人とのふれあいが記載されている。新潟本社の「角上魚類」という魚屋は品揃えもいいが、牡蛎の剥き方などを教えてもらうなど昔ながらの対面販売が大変人気である。会話があることが楽しい。私も来訪時は予算より多く買い物してしまうことが多い。

安芸太田町のチャレンジショップもそのようなライブ感が受けていると思う。ライブ感が重要である。

広島市農業協同組合戸河内支店 支店長 山田氏

先日、加計地区も含めて集まる機会があった。そこで利用目的は決めないが、集まって会合が出来る場所がほしいという意見があがった。

委員長 篠原先生

コミュニティスペースは伝統芸能を楽しめるスペースとしても兼用できると良いと思う。

広島経済大学 中村先生

観光を柱として打ち出している点について評価したい。道の駅は観光に偏ることが多いが、町民、事業者、外から来られる方と多様な視点での取り組んでいて良いと思う。昨今の防災についても記載されているが、一方で現実的にどの程度まで機能を入れられるだろうか。昨今の状況も踏まえられており、基本方針については良いと思う。

委員長 篠原先生

観光と産業の分野に整理し、将来像を出した委員会資料 2 についてご意見頂きたい。

商工会 津田会長代理 事務局長佐々木氏

安芸太田町には観光協会がない。観光協会の業務内容を地域商社で担うのか、観光協会を新たに整備するのか役割を明確にしなくてはならないのではないかと。道の駅を整備する前に体制を整理しないとお互いが譲り合って動かなくなる。観光案内所に人がいないというご指摘があったが、それではいけない。観光のすべてを地域商社に任せる体制は難しいのではないかと。委員会資料 2 では「農地の集約化・マッチング」「有害鳥獣対策の強化とジビエとしての活用」「祇園坊柿加工販売協議会の連携強化と生産支援」「認定農業者間の連携強化」などは町役場だけが実施主体とされているが、地域商社も関与すべきだと思う。町の下に地域商社がある体制から、地域商社が主体的に動ける体制に変えていく必要があるのではないかと。

委員長 篠原先生

稼げる観光が重要視され DMO が増えてきているが、作ってもなかなか機能していない。町が DMO に様々なことを任せるが、限られた人員に対してやるが多く、何からやっていいのかわからないという状況が見られる。佐々木委員からは地域商社への期待を込めた意見があった。地域商社から意見はあるか。

地域商社事業本部長 栗栖氏

DMO の登録が 11 月に本登録となった。観光事業をまちづくりと一緒にやっていきたい。

レンタサイクルの導入への意見があったが、E-バイクの導入を 11 月 8 日から社会実験として開始した。町は 2 次交通がないため、それを打破する策として考えている。カーシェアリングも考えていきたい。

先ほど観光案内所に人がいないという指摘があったが、いろいろな業務を掛け持ちしており、本来の業務が滞っているということは前々から指摘されている。人数が足りていないが、今後組み合わせを考え対応していきたい。地域商社は DMO であり、観光協会

と同じ機能にはならないが観光分野を担当していきたい。

委員長 篠原先生

地域商社は全国的に人材不足であるが、DMOとして観光の政策をしっかりと考えていく立場である。Eバイクやレンタカーの導入といった事業だけではなく、町全体の観光の構想を確立せねばならない。新しい道の駅を整備しても、話題だけでは数年しか持たず、目的地化されない。観光で稼ぐのであれば一つ一つの要素を顧客にとって価値があるものに育てていかねばならない。それを道の駅の構想とも整合性をとっていかねばならない。

観光の意見はでてきた。産業について意見がある方はいるか。沖段さん、成功に向けた事業のポイントについて意見をいただけないか。

産直市 河本氏の代理 沖段氏

先日視察を行った「道の駅センザキッチン」は地域商社である「ながと物産合同会社」を指定管理者とし、運営者としての意見を聞きながら道の駅を整備した。「ながと物産合同会社」は農業協同組合と漁業協同組合及び長門市の出資で設立された会社である。安芸太田では道の駅を誰が運営するのか？役割分担が必要ではないか。管理・運営する会社も入れて議論をしなくては整備後にミスマッチが起きる恐れがある。

道の駅の再整備は、実施するなら早く実施していただきたい。今話をしている人たちが参加できるうちに整備をしてほしい。

委員長 篠原先生

様々のご提言がでた。構想を練ってあるべき姿を考えることは重要だが、誰が構想のように運営し、稼げるようにしていくのか。誰が運営して稼げるようにするのか。視察から、事業者が中心となって構想や設計を練っていく必要があるという提言があった。これはゾーニングを計画する前に考えておくべきことではないか。副町長からコメントいただきたい。

小野副町長

提言はごもつともである。今我々が取りまとめているのは地域の意見、ニーズである。道の駅は集会所ではなく、人に来ていただく施設となる必要がある。次の段階で地域のポテンシャルを測り、そしてオペレーションを考える。PFI/PPPを検討したうえで、誰が運営するか、どうすれば儲かるかということを考えたい。

今できる範囲の中で少しずつ計画していき、案を修正していきたい。

委員長 篠原先生

以前伺った際は地域商社が道の駅を運営するということがあったが、今想定したものを全て地域商社が本当に運営できるのか。今のDMOは登録されても、取り消しされることが多くDMOとしての活動だけでも大変である。先ほどのお話は地域商社がすべての運営を仕切り切れるのかという原点の話をする必要があるという確認だと思う。誰が経営の責任を持つのかなど役割分担を整理する必要がある。波佐本さんから、出店・経営を考えるステップでの課題や構想を教えてください。

道の駅周辺出店者事業者協議会代表 波佐本氏

道の駅は初め1店舗だったが、今ではチャレンジショップとレストランを合わせて6店舗運営している。コロナ禍で苦戦していたが緊急事態宣言が明け、やや持ち直してきた。指摘があったように安芸太田の道の駅は休憩利用が多い。わくわくランドの利用者がとても多く、閉鎖時は道の駅への来訪者も減少していた。

道の駅施設に付属するコンクリートのスロープが太田川への眺望を遮っており道の駅らしくないという町民の意見がある。

整備後すぐに飽きられないように、地域の周辺観光資源整備も同時に整備を進めていく必要があるのではないか。実施するなら早く実施していただきたい。

委員長 篠原先生

2月に訪れた際、チャレンジショップがとても賑わっていた。各店が購入者に汁物を無料提供するなど相当な工夫を行っていたことが要因なのではないか。これは市場経済のもと各店が顧客を確保しようとする競争が必死さを生じさせ、サービスとして表れているからだと推測できる。これまでの整理をもとに何を付加価値とし、どのように経営につなげるかを考える時期にきている。多角的なご意見をいただけないか。

比治山大学 山田先生

将来像に「交流人口・関係人口・定住人口を創出」と書いてあるが個々の施策を読んでもみると、交流人口への施策にとどまっているように見える。しかし広島市内から一時間という立地を活かせば、今流行りの仕事と観光をつなげるワーケーションやブレイジャーの需要が見込めるのではないか。さらに利用者の一部を関係人口に、そして定住人口へとステップアップさせていけるのではないか。

町に立地適正化計画があるのかわからないが、将来的に町の施設をどのように集約していくのかの構想はあると思う。立地適正化計画の中で安芸太田町の中で道の駅がどんな位置づけか確認してほしい。そうすると道の駅の周辺にどういう機能を入れるのが明確になるのではないか。

委員長 篠原先生

観光・産業だけでなく総合的に地域計画と連動していく必要がある。

ここで私からコメントをさせていただく。

資料はよくまとめてくださったと思っている。今後は委員会資料1「みんなで応援したくなる成長し続ける道の駅」を実現するための内容を具体化し、展開していく必要がある。

ゾーニングは、渋滞の懸念から交通ルートのタタキを先んじて町で検討を始めておくという意図がある。実際には、私が指摘した課題の整理や両山田委員が指摘した町の大きな計画が定義された上で進むものだと思う。

(3) ゾーニング（案）について 委員会資料-3、-4、-5

産業観光課 菅田課長

皆様、ご意見ありがとうございます。道の駅再整備は観光・産業戦略と一体的に進める必要があること、建設だけでなく運営についても根拠が必要ということをご意見いただいた。

委員会資料3～5の説明を行う。

A案B案ともJA広島市の横に道の駅を設置する。コンビニは道の駅へ統合し、左折INとしている案。駐車場の位置が奥か手前かという部分が異なる。少しでも渋滞緩和となるように考えている。

参考案は、JA広島市を道の駅へ統合し、ジュンテンドーの裏に車路を通す案である。町道門田線は一部を廃止する案としている。JA広島市を統合すると、その分金額が上がる。委員会資料5では3案の比較検討を行った。

参考資料2には「今日も田舎でピクニック」という資料をつけている。PJ会議メンバーから出た案であり、日帰りでちょっと遊びにくるような道の駅というイメージである。

参考資料3はPJ会議での議論をまとめたものである。

コンビニ南側に移してはどうか、有料駐車場としてはどうか、道の駅は奥にあった方がいいなどの意見、特にJAとジュンテンドーは町民が利用する施設なのでそこに道の駅の町民が利用する施設を近接させてはどうかという意見も出た。

国道の関係、道やトイレの整備を誰が担うのかに関して広島県や国土交通省との協議を行う必要がある。

3案のゾーニングについて意見を出してほしい。

委員長 篠原先生

委員会資料3で示された基本方針へご意見いただけないか。

商工会 津田会長代理 事務局長佐々木氏

資料3に方針5「安全性に配慮した道の駅」とあるが、国道191号で交通渋滞が発生する日は1年に何日あるのか？ほとんどないのではないか。今のJAの西側道路を拡幅する方が全体の事業バランスを考えると良いのではないか。道の駅ができると、混雑するため道路整備を先に行うというのはいかがなものか。またそれならば駐車場が小さすぎるのではないか。

道の駅の敷地内にJAがなければ駐車場を確保できる。駐車場が小さくなくなるとは意味がない。根本的な考え方を整理すべきではないか。

委員長 篠原先生

一番重要なことは資料1にあったようなこうあるべき、こうしたいという意見が出ているということ。夢があっていい。しかし具体的に事業につなげていくには、誰がどのような形で経営するかという議論が必要。DMOにも登録され、地域商社の仕事量はこれまで以上に増える。出店している人、民力でどのように回していくのか。資料1を実現することは役所や地域商社だけではできない。チャレンジショップ等の民力をどう活かし、繋げていくかがとても重要である。

ゾーニングをつくるのは楽しいが、事業としてどのように繋げるのかを先に議論する必要がある。

事業のイメージが見えてこないとゾーニングは描けない。民間事業者からどうすればお金が儲けられるかをしっかりヒアリングをしないといけない。

最後に総合的なお話がある方はいるか。

町議会 中本議長代理 角田議員

道の駅に勤める方だけでも相当な人数となると思う。レイアウトの裏にバックヤードをしっかりとっていただきたい。

委員長 篠原先生

道の駅が繁盛してくるとバックヤードがとれずに困ることとなる。従業員の動線を考えることは重要。

子育て世代代表 大庭氏

ぱっと見て楽しそう、寄ってみたいと思える道の駅にしていきたい。もともと道の駅に寄ろうと考えている人以外も寄っていく道の駅であってほしい。道の駅が背を向けているような形ではなく、人を呼び込める施設配置が重要なのではないか。子どもが喜ぶようなものが外から見えている、人を歓迎していることが分かる道の駅となってほしい。

委員長 篠原先生

構想のなかで子育て支援が記載されているが、具体的に中身を決めていくことが必要である。子供を遊ばせるだけのスペースとならないよう、運営についても大庭委員からの意見を今後ともいただきたい。

産直市 河本氏の代理 沖段氏

道の駅ができた際に関わっていたが、現状の最大の難点は道の駅の中に国道が走っていることであると思う。ルフランから川沿いに国道を回すとまとまった敷地となりインパクトもあって良いのではないか。

公共施設の集約を考えると、上殿小学校との連携も重要ではないか。

委員長 篠原先生

沖段委員の発言の通り、スピード感を持って進めていく必要がある。

来年3月までに具体的な構想までまとめていただきたい。

次回の委員会はいつを予定しているか。

事務局 渡海

今回は2月を予定している。

橋本町長

今回導入施設の案を示したが、もう少し精査する必要性は感じていた。また精査したうえで皆様に提示したい。

町全体でのゾーニングやコミュニティの場についてご意見いただいた。町全体の集約化については議論がなかなか進んでいない。コミュニティの場については、「生涯活躍の町構想」という構想がある。旧町村（筒賀・加計・戸河内）ごとに集まる場を設けようと考えており、その一つが加計の月ヶ瀬温泉である。筒賀でもつくっている。戸河内も機能させていきたい。

その中でも道の駅は観光・産業の中心という想定で全体のゾーニングは計画している。

皆さんの理解を得たうえで議論していきたい。

渋滞緩和の検討についても、渋滞となると予想される根拠となるデータをお示しできていないため今のような議論となったと思っている。そうした点も詰めてまたお示ししたいと思う。

4. 閉会あいさつ

小野副町長

沢山のご意見がでて有意義な会だったと思う。継続的ににぎわう道の駅を整備するのは難しいが、今検討できる中で最も良いものを整備するという思いで取り組んでいく。

以上